

少しだけ先を歩くセンパイたちに、どんなことを考え、経験し、道を進んできたのか質問してみましょう。あなたも一歩踏み出せば、自分が思い描く未来に手が届くかもしれません。

あなたのあるく  
一歩さき



## 科学も英語も大好きな高校生、 分野も国境も超えて世界から学ぶ

ミネルバ大学 3 年生  
コンピューターサイエンス専攻 経営学副専攻

成松 紀佳 さん

高校時代は昆虫が見ている世界について物理と生物の視点から研究し、国際学生科学技術フェア物理天文学部門で4位入賞を果たした成松さん。他にも興味をもったさまざまな活動にためらうことなく挑戦してきた彼女は今、特定のキャンパスを持たないミネルバ大学の学生として、4年間で7カ国を回りながら、教科書に載りきらない知識と知恵を探求しています。



高校時代

訪問先のサンフランシスコで同級生と。  
(手前中央が成松さん)

### Q：どんな中高生だったんですか？

保育士を目指す、科学と英語好きの生徒でした。今もそうですが、当時からいろんなことに興味があつたんです。おもしろそうな活動のチャンスがあれば迷わず参加していました。学外の人とも交流できて楽しそうという理由から、中学の頃には県が運営する「海外チャレンジ塾」に参加したり、学内外の支援プログラムを活用することで中高6年間で7回も海外に行きました。

### Q：海外の大学で気づいたことは？

ディスカッションが中心の授業の中で、最初は英語での議論についていけず、焦りを感じました。でも、ほとんどの学生にとって英語は母国語ではないし、必ずしも正しい意見を言っているわけでもなかったんです。むしろ多様な意見や価値観を共有することが大切だと気づきました。たとえば、韓国のレコード会社に対して「パンデミック

クで生活が変化した後の新しい宣伝方法」をチームで提案したときのことです。日本の文化や専攻のデータサイエンスを生かした分析結果を用いた私の提案に対して、国籍や専攻の異なる同級生たちが調べてくる事例や提案は文化背景も考え方もまったく異なり、互いの視野が広がる新しい発見になりました。

### Q：一歩を踏み出す秘けつは何でしょう？

私は自分が選んだ道や挑戦で失敗したとは思わないようにしています。もちろん必ずしも思い通りではありません。実際、第一志望の大学は別にありました。でも、今の環境には学んだことを応用する機会が多くあり、将来やりたいことを実現するための基礎力と考え方を身につけられます。進んだ先で得られるものに気づいたら、その選択は価値あるものだと思うんです。そうやって進んだ道を正解にしていく考え方が、挑戦への一歩を踏み出しやすくしてくれているのかもしれない。(文・伊達山 泉)